



おくすり通信

No. 79 インフルエンザ

こんにちは、薬剤科です。今年は例年より早くインフルエンザが流行し始めています。流行に備えましょう。

《インフルエンザ》

インフルエンザはウイルスによる感染症です。1～3 日の潜伏期間の後、38℃以上の高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現われ、その後、喉の痛み、咳、鼻汁などの普通の風邪のような症状が続きます。合併症にも注意が必要です（高齢者や免疫の低下している方：細菌による肺炎。子ども：急性脳症）。

インフルエンザは発症前日から発症後 3～7 日間は鼻やのどからウイルスが排出します。解熱してもウイルスは排出されると言われていますので、マスクを着用するなどして周囲の方につつさないよう配慮しましょう。

《インフルエンザワクチン》

インフルエンザワクチンは注射の「インフルエンザ HA ワクチン」（不活化ワクチン）と経鼻（鼻腔内噴霧）の「経鼻弱毒生インフルエンザワクチン」（生ワクチン）があります。経鼻のワクチンは 2 歳以上 19 歳未満の方が使用できます。

注射のワクチンの予防効果の持続期間は接種後 2 週から 5 か月程度です。接種後 2 週間程度でウイルスに対する抗体が増加し、3 か月程度は効果が持続し、接種後 5 か月には 50% 程度へ低下します。

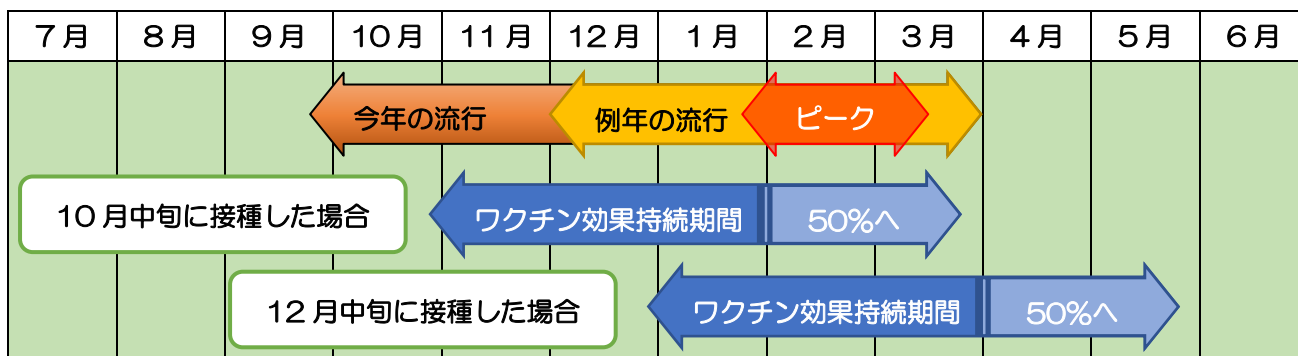
経鼻のワクチンの効果発現時期は接種後 2 週間程度です。持続期間は明確にされていません（インターネット上では経鼻ワクチンは 1 年効果が続くとしているサイトが多くありますが、臨床データはありません）。

インフルエンザワクチンは症状の重症化を予防する効果が期待できますが、発病を予防する効果は麻疹や風疹ワクチンほど高くはありません。ワクチンを接種した場合でも他の予防策（手洗い・うがい・マスクなど）をあわせて行いましょう。

ワクチンを接種する前に感染した場合でも、型の異なるウイルスに今後感染する可能性があります。体調が回復すればワクチンは接種可能となりますので、接種を希望する医療機関へお問い合わせください。

《ワクチンの接種時期》

接種時期については予防効果の持続性と流行期を考慮する必要があります。流行期は例年 12 月～3 月、ピークは 1 月末～3 月上旬のため、12 月中旬までに接種することが望ましいとされています。



※インフルエンザワクチン定期接種対象者の接種開始時期は各自治体のホームページなどでご確認ください。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。